

第18回宇都宮平和映画祭

ひろしま

1953年製作。反米色が強いとの理由から劇場公開がされなかった幻の作品。

長田新編「原爆の子」より「雲ながるる果てに」の八木保太郎の書卸したシナリオの映画化で、日教組プロの製作。関川秀雄が監督し、宮島義勇が撮影している。出演者は岡田英次、神田隆、月丘夢路、山田五十鈴など。

広島県教職員組合と広島市民の全面的協力の下で制作された。原爆投下を直接経験した者も少なくない広島市の中学・高校生、教職員、一般市民等約8万8500人が手弁当のエキストラとして参加し、逃げまどう被爆者の群集シーンに迫力を醸し出している。映画に必要な戦時中の服装や防毒マスク、鉄力ブト等は、広島県下の各市町村の住民から約4,000点が寄せられた。

アナウンサーたちの戦争

1941年12月8日、天才アナウンサーと呼ばれた和田信賢と若手アナウンサーの館野守男は、ラジオで開戦の第一報を伝えて国民を熱狂させる。その後も二人は緒戦の勝利を力強く伝え続け、国民の戦意を高揚させていく。同僚アナウンサーたちは南方占領地に開設された放送局に次々と赴任して現地の日本化を進め、和田の恩人である米良忠麿も前線のマニラ放送局に派遣される。一方、新人女性アナウンサーの実枝子は、雄々しい放送を求める軍や情報局の圧力により活躍の場を奪われてしまう。やがて戦況が悪化するなか、大本営発表を疑問視するようになった和田と「国家の宣伝者」を自認する館野は激しく衝突する。開戦二週と玉音放送の両方に関わった伝説のアナウンサー・和田信賢を森田剛が演じ、実枝子役で橋本愛、館野役で高良健吾、米良役で安田顕が共演。

前売券(1本ごと)

一般1,200円

※高校生以下は当日券のみ

当日券

一般1,500円

高校生以下1,000円

○上映時間 (3会場とも同じです。)

①10:30~12:14 「ひろしま」

②14:00~15:55 「アナウンサーたちの戦争」

前売券販売所

栃木県総合文化センター
宇都宮市文化会館
やさい&くだもの村 全店

栃木県映画センターLINE公式
お得なクーポンはこちらから！



主催：良い映画を観る会・宇都宮平和映画会
問合せ：090-9340-2311(樋山) 090-4375-1462(星)